

グループホームかのん
(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195300223		
法人名	株式会社 慈光		
事業所名	グループホームかのん		
所在地	北海道斜里郡斜里町豊倉50番地		
自己評価作成日	2025/3/4	評価結果市町村受理日	2025/4/11

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0195300223-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和7年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その人らしく暮らす事を第一に、その方に寄り添うようにしています。パジャマで寝たくない人や食事は皆と食べたくないけれど、途中でテーブルに着くなどひとりひとりの行動に可能な限り沿いながら日々を穏やかに過ごしていただけるよう職員一同努めています。
職員にとって働きやすい環境作りです。
意見や考えを言えるように笑顔で楽しく、思いやりを持ち常にコミュニケーションをとっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

春は花見、夏・秋はお祭りや神輿見物に出かけ出店を楽しんでいる「グループホームかのん」は、新型コロナウイルスの影響で制限されていた面会や外出は感染対策を行い再開している。令和6年4月休止していた2階を再開し、系列の事業所から利用者9名が入居し2ユニットになり、名称を「グループホームかのん」として現在に至っている。法人代表は国、道、町の情報をいち早く取り入れ先進的な支援に取り組んでおり、情報はマンスリーレポートとして発行し家族や地域の理解に貢献している。利用者居室のベッドに設置する眠りスキャンは平成29年から系列のグループホームに導入しており、現在は当事業所18ベッドに導入し、夜間や終末期の睡眠や体調に科学的な視点を入れ利用者の体調管理や職員の負担軽減に役立てている。更に、多くの研修を行っており、研修指導機関のWEB研修やインターネット動画を活用し職員の資質向上に役立てている。「穏やかな笑顔で真心をこめて接します。一人ひとりの願いを大切に優しい言葉で接します。いつも思いやりをもって温かく丁寧に接します。心を通わせ明るい職場を目指します。みんなが安心できる施設を目指します」は、法人全体の理念であり「たんぼぼ憲章」として職員に浸透している。外国人職員は母国語に翻訳したり先輩職員の指導を受け理解できるよう努めており、笑顔を忘れない介護を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議の際の唱和等を通じ、また玄関前に飾ることにより目に触れる機会を持ったり、意識をもつようにしている。	理念である「たんぽぽ憲章」を事務所に掲示しユニット会議時に唱和し、常に意識の下に置き実践につなげている。外国籍の職員は先に入社した職員から説明を受けたり翻訳して理解に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所のスーパーに買い物に行ったり、地域の美容師さんに訪問してもらうなどして、可能な限り地域とのつながりがもてるように努力している。	自治会に加入しており地域の情報は回覧板で得ている。系列の事業所が神輿の休憩場所になっており見物に出かけている。かつて地域で防災合同訓練を行っており訓練と懇親会の開催を呼びかけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	十分に地域貢献を行う事はできていない。自治会活動や地域の学生に向けての取り組み等ができるように慣れれば良いと考えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族代表からのご意見を可能な限り反映できるよう努力している。全ての家族へは浸透が不十分である。	運営推進会議は利用者家族、地域住民、町担当者の出席を得て開催し意見を得ている。会議の中で救急救命や災害について行政からの情報があり防災に活かしている。会議の情報は掲示しており家族に送付する予定となっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議や運営推進会議を通して協力関係が築けるよう努力している。	町担当者とは運営推進会議や地域ケア会議、訪問診療ミーティングの中で情報交換を行い協力関係を築いている。法人の代表は国の方針や取り組みの情報を得よう行政との連携を取っており協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の研修を年に2回実施すると共に、3ヶ月に1度会議の際に確認を行い、身体拘束に当たる行為がないこと確認をしている。	身体拘束廃止に向けては会議の中で検証を行っており禁止対象の具体的な行為を理解し、身体拘束の無い介護に取り組んでいる。研修は2回行っており、特定技能職員も協力して理解できるように取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修を実施し、虐待に至る前の不適切なケアについても学び虐待に繋がらないよう心がけている。		

グループホームかのかん

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を通して学び、また実際に受けている方の支援をする際にも実際を知ることが出来ているため、必要な際には相談をすることが出来ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行い、わからないことが出た際にはいつでも問い合わせをして欲しい旨伝えている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際に伺った話などを反映できるようにはしている。書面等でのアンケートや要望の確認は定期的には実施出来ていない。	利用者、家族の意見や要望は日常の会話や面会時に把握するように努めている。面会は現在制限なく行われており原則、居室での面会になっている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	面談や日常の会話などからくみ取ってくれているように感じている。	職員の意見や提案は業務の中や毎月の会議時に把握している。職員からの相談もあり聞く機会を設けている。洗濯機清掃やキッチン清掃等についての提案があり、取り入れる中で職員一体となったの事業所運営となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談等を通して整備をしてきているように感じている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	オンライン研修やOUTを通してトレーニングの機会を設けている。また、利用者との会話で日本語能力の向上になっていると感じる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議等の参加を行ってはいるが、今後は介護職員もその場に参加をたくさん交流を深めてもらいたいと考えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員の関わりを増やし、信頼関係を築くことで不安や要望を伝える事が出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	細かくご様子をお伝えすることを実施し、関係作りをするように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは、「できる」とご本人や家族が思っている事に関しても、見守り、声掛けを行いながら実際に把握するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	行ってもらい、手伝ってもらい事を通じ、共同生活者としての関係をつくるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族への連絡を行いながら、遠方の方に関してはライン等使用しながら協力関係を築く事が出来るよう努めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	法要に行く、親類が尋ねてくるなどを可能な限り行っていたり関係が途切れないように支援している。	これまでの馴染みの店への買い物や美容室への訪問は希望にそい、家族の協力を得て対応している。また、知人の訪問があった時には職員が中に入り関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係が悪くなっているときは少し距離を置きたい場合もあるが、認知症の関係で中々うまくいかないこともあり。		

グループホームかのかん

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	親族が遠方であったため、入院による退去後もしばらくの間、相談やサポート支援を実施した。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限りご本人の望むような形になるようには努めているが、実際は十分に対応する事が出来ていないと考えている。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望は、利用契約時に聞く家族の話や生活歴の中で、また日常会話で把握し実現出来るように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	可能な限り、本人やご家族から聞き取りを行い、これまでの生活を把握したり、想像するなどしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の様々な事を行って見ていただくことにより、新たに出来ることの発見に繋がるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題やケアのあり方についてはもっと深く家族と相談をしていく必要があると考えている。	介護計画は基本的には3か月から6か月利用者の状況を見て見直しを行っている。毎月のサービス担当者会議(職員会議)の中でカンファレンスを行い、ケアマネジャーがモニタリングを行って現状に即した計画作成をしている。提供するサービスの様子はD4シートに記入され見直しに役立っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の発言や表情等記録に書くことで、どのような様子であったかをイメージする事ができるよう工夫している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービスの多機能化に関しては十分とはいえない状況で有り、改善の必要はあると思われる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年に4回の地域ケア会議を通して、様々な地域資源の把握やサービス事業所について把握するよう努力している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望に添い受診を支援している。	これまでのかかりつけ医を基本としているが、多くの利用者は国保病院をかかりつけ医としている。医師の判断で訪問診療になっている利用者もあり、適宜状況にあった受診をしている。看護師が在籍し24時間対応で安心の状況になっている。	

グループホームかのかん

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者やケアマネを通して看護師に情報提供を行い、またラインでの写真や動画での情報共有を行う事を実施している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院との連携のMTGを月に1度実施し、情報の共有を図っている。それ以外でもMSWとこまめに連絡をとりながら関係作りを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	訪問診療等を活用したり、病院の地域連携室のMSWと連携を図り可能な限り情報を共有している。	重要事項説明時に重度化した場合や終末期の対応について事業所での取り組みを説明しており、理解を得ている。利用時における終末期要望調査事前指定書で希望を聞き、対応できるように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習の実施の際、実際の通信指令室への通報訓練を外国籍職員が行う等、より具体的な実践を行うようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対応に関する研修を実施している。地域とは実際どのようなことであれば協力いただけるかを協議している所である。(以前行っていた訓練のような実際の避難の手伝いは難しいとの事)	災害訓練は1回は行政指定の防災講習を受けており、2回目は消火、避難、通報の自主訓練を実施している。停電対策は発電機を用意しており備蓄品は法人本部に保管している。外国籍の職員は町の三者通訳を利用できるが今後通報訓練を行う予定となっている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	申し送りの際や伝達の際も居室番号で伝え、本人となるべく特定されないように工夫している。	ハラスメントマニュアルで研修を行い一人ひとりの人格を尊重し誇りを損ねない言葉かけを行っている。人前で特定できる呼称には気を付けイニシャル呼称を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人との会話を大事にし、ちょっとした本人の台詞等も記録に書くなどを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	シーツ交換等のタイミングや食事の時間がずれること等の対応は行う事が出来ているが、曜日や職員の都合でお願いしていることもまだ多く見られる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替えは一緒に選ぶなどして、ご本人の趣味等を理解するように努めている。		

グループホームかのかん

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	大根の皮むきや、味噌汁の具を考えてもらう等して参加の機会を促し、食器拭きはほぼ毎回入居の方に行ってもらった事出ている。	献立は調理師資格者の法人役員により全事業所がローテーションで使用できるようにプランを8パターンまで作成し、事業所で組み合わせを決め調理を行っている。調理担当がおり2ユニット分の調理を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	提供する食事量の調整や、個人の飲みやすいものの提供などを通して、一定の栄養が確保されるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	実行できているが、難しい場面や不十分な事もあるため、より一層ケアの重要性を把握することが必要である。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の様子や動きなどから声をかけたり誘導することで、対応している。	一人ひとりの排泄記録を取り間隔や習慣、動作を把握しさり気無く声をかけてトイレでの排泄を行っている。夜間は眠りスキャンで覚醒が分かるようになっており利用の者負担に配慮した適切な支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の把握や、温電法、マッサージなどご本人が不快に思わない様に支援を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現状、本人の希望に添った支援を行うことができているとはいえない状況である。	週2～3回の入浴を基本としており、その日の状況や状態で判断している。広い浴槽に木製のひじ掛けを作り、入りやすく工夫しており楽しく入浴できるように取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室が個室であるため、状況に応じ居室で休んでもらったり、時には食事も居室で召し上がってもらったりとその方のペースに合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変更となった際には、どのような薬であるのか等変化の観察のポイント等を申し送り時に確認するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	縫い物や料理の下ごしらえなど、出来ることが行っていたら、感謝の気持ちを伝えることでやりがいを感じていただけるようにしている。		

グループホームかのかん

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩等であれば当日でも可能である。ご家族の希望により、10年ぶり異常に兄弟との再会での食事を行う事ができた方もいる。施設としては車の貸し出しを行う事で協力することが出来た。	畑が広がり自然豊かな風景が広がっている。天気の良い日は散歩や外気浴、畑を見に出かけている。お祭りには系列の事業所が神輿の立ち寄り所になっているので見物に出かけ楽しんでいる。春は花見、秋には紅葉を見にドライブを行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に買い物に行った際などにご自身で支払ってもらうなどの機会は設けているが、基本的には事務所で預からせていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ラインを利用し、会話は難しくともこちらからのメッセージ等送る事が出来るようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間には季節の飾り物等で工夫を行っている。カーペットの色でゴミが目についてしまう方がいるため、その方の周辺は色を変えるなど行っている。	各ユニット廊下は回廊式になっており運動に使用されている。リビングは広く観葉植物が置かれ温湿度が管理されている。季節の飾りを皆で作成し掲示している。調理や盛り付けの様子が見られる様になっており生活感のある雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事のテーブルを増やすなどして、トラブルを軽減させたいがスペースの問題と本人達の気持ちで中々うまくいっていない現状がある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にカーペットを引いたり、ベッドの頭の位置を変更するなどして本人が生活しやすいよう工夫している	居室にはクローゼットと長テーブルが壁面に設置されており、その上に加湿器や仏壇を置いたり写真を飾っている。その他、使い慣れた家具を持参し自宅同様に生活出来る工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表札代わりの名前を目線に合わせて貼り付けたり、表札に本人の好きなものを貼ることで識字に問題がある方でも自身の居室がわかるよう努めている		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195300223		
法人名	株式会社 慈光		
事業所名	グループホームかのかん		
所在地	北海道斜里郡斜里町豊倉50番地		
自己評価作成日	2025/3/4	評価結果市町村受理日	2025/4/11

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0195300223-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和7年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その人らしく暮らす事を第一に、その方に寄り添うようにしています。パジャマで寝たくない人や食事は皆と食べたくないけれど、途中でテーブルに着くなどひとりひとりの行動に可能な限り沿いながら日々を穏やかに過ごしていただけるよう職員一同努めています。
職員にとって働きやすい環境作りです。
意見や考えを言えるように笑顔で楽しく、思いやりを持ち常にコミュニケーションをとっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員とのコミュニケーションは常に行い明るい職場を目指している		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	交流はありません		
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	活かしていません		
4		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取り組みは出来ている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ケアマネジャーが関係を築いてくれている		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修を行い拘束をしていないか確認している		
7	7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を行いチェック表を用いて確認している。職員がストレスが溜まっていないか気にするように心掛けている。防止に努めている		

グループホームかのかん

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修で学んでいる。利用者様の1人で保佐人がついている方がいます。相談をし支援をしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様ご家族の信頼関係は大切にしている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を行いご家族からの意見等頂いたらすぐに対応出来るようにしている		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が意見等を聞く機会を設けていません		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場に足を運び色々と把握されている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	丁寧に説明し進めてくださいます		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	取り組みはしていない		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	困っていること等紳士に受け止め職員間で情報を提供し利用者様が笑顔になれるよう寄り添い関係を作っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	大事にしています。直ぐにつながるようなラインアプリを使用し連絡をしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様は初め自が中々見えない事がある為慎重に見極め対応している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事やりたいことを大事に手を出しすぎないように心がけ、関係を築いている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いを尊重いつでも互いに連絡しやすいよう、関係を築いている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	「行きたい」「会いたい」と言った叶いそうな願いはすぐに行動する		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コミュニケーションが難しい方ほど情報を共有し利用者様同士の関わりが上手に出来るよう間に入り笑顔になれるよう努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係性は大事にしている。フォローしている方は今はいません		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中から意向を聞き取り把握している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から聞き取りをしたり、利用者様からの昔話を聞かせて頂く		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々変化するため現状把握、情報共有に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	話し合いの場をご家族とすることは無いが職員間で意見やアイデアを会議する		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ありのままの利用者様の言葉も記入しその時の状態がわかりやすいが計画の見直しに活かしていない		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診等ご家族対応が難しい時、職員で対応できるようにしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	把握はしているが中々支援が難しいが美容室の方が来てくれたりくらいです。地域ボランティアの方との交流もコロナが流行今もありません		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	関係を築いている。		

グループホームかのかん

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に情報を提供し相談できる環境になっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ソーシャルワーカーとの情報交換や相談をしスムーズに行くようにしている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族との状況報告等や病院との連携は取れている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の方に来てくださり講座、実践を行っている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議で行っているが令和6年度に職員会議で行っていない		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	意識して対応している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択をしてもらうようにしたり、できることを続けられるよう声掛けしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調に合わせて過ごして頂いている。眠たい時気分が乗らないとき、利用者様の思いを尊重している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれな方ほど洋服がたくさんあるので「着やすい」はもちろんであるが「こんな素敵な服もあるよ」と進めてみる		

グループホームかのかん

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	主に片付けを手伝って頂く。テーブル席で自身でを使用した茶碗等を拭いて頂いたり、台所に立ち一緒に茶碗を洗ったり拭いたりしている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	塩分や糖分に気を付ける方の把握や食事トータルを把握して記入している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1人ひとり見守りし必要に応じて声掛け、支援を行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表に記入しパターンを把握。夜間歩行が不安定な方は居室にポータブルトイレを設置し使用していただく		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	料理の具材やヨーグルトにオリゴ糖を入れる。4～5日排便のない方は腹部マッサージや温めるなどいろいろ行っている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回と職員が決めているが利用者様の希望やタイミングに合わせ調整を行っている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠りスキャンを活用して覚醒しているタイミングを見て訪室するようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬のないよう務めているが1人ひとりの薬の目的・副作用等の理解は薄い為、薬情を手元に置くようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみごとは少ないです。プレート焼きや季節ごとのメリハリが出来るようにしたい。		

グループホームかのかん

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	車に乗って出かけたり美容室に行ったりしている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	見守りしながら自身で財布を持たせ支払いができるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	声掛けし電話が出来る事を伝えている。電話ができたときは安心する姿を何度も見ます		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく過ごせるよう緑を増やしたり室温や湿度を管理している。季節感の取り入れはもう少し頑張りたいと思います		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの配置や観葉植物で壁を作ったりしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものを置いたり家族写真を飾ったりしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	離れたところからトイレと分かるよう記入したり居室の表札は大きく分かりやすい文字にする		